

3月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年3月末現在〕

令和4年4月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」は変化なし、「売上高」は改善、「収益状況」は悪化した。

業種別では、製造業では「景況」、「売上高」は改善し、「収益状況」は変化なしであった。非製造業は「景況」、「収益状況」は悪化した、「売上高」は改善した。

また、販売価格は上昇しているが、長引く燃料や原材料等の価格の高騰を受け、幅広い業界で収益が圧迫されているため、収益は改善されていない。

景況DI

製造業は、前月比3.8ポイント改善の▲50.0ポイント、非製造業は、前月比4.1ポイント悪化の▲45.8ポイント、全体では、前月比増減なしの▲48.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比3.9ポイント改善の▲26.9ポイント、非製造業は、前月比8.4ポイント改善の▲20.8ポイント、全体では、前月比6.0ポイント改善の▲24.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比増減なしの▲46.2ポイント、非製造業は、前月比4.2ポイント悪化の▲50.0ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の▲48.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
食料品製造業	学校給食パン	昨年9月に一斉休校をした学校給食停止分の補償について、事業者の経営を維持する目的で自治体からの補償が決まった。補償額や内容は自治体により様々であるが、県への陳情の成果が出た。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県2月の清酒課税移出数量は、前年同月比92.5%であった。本格焼酎については、前年同月比113.6%と好調であった。まん延防止等重点措置の発令により外食の売上が大きく落ち込んだ。コロナ禍前の前々年の2月の清酒で比べても73%、同じく焼酎で57%とかなり厳しい。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるものの、コロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に注力し、令和4年1月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、152.8%と引き続き好調であった。国内市場に限界がある中で、当県でも今後輸出強化を考えていかなければならない。 ○県内当業界について まん延防止等重点措置は解除されたが、茨城の感染者は一向に減少しない。日本酒の主たる消費者である中高年が用心して外食や飲み会を控えている。家飲みでの消費拡大も視野に入れて営業していく必要性がある。Withコロナは企画力の勝負と考える。	
	納豆	お客様が少なく、土産品用納豆の売上が大変厳しい。原料高、資材高、原油高により業界全体が悪化している。ロシアとウクライナの戦争が早く終わってほしい。食品全体の値上がりの影響もあり、今後納豆の消費もさらに落ち込むのではないだろうか。	
	菓子	オミクロン株の影響がまだ落ち着いていない。人々が感染に気を付けながら行動しているように思える。	
繊維工業	袋物	まん延防止等重点措置も解除され、新年度からの良い動きに期待したいが、ウクライナ情勢により、材料等の値上げが懸念される。	
製 造 業	木材・木材製品	製材	・構造材、羽柄材とも全体的に緩やかな荷動きとなった。 ・欧州材は、ロシアのウクライナ侵攻により入荷が不安定な状況。 ・原木については、入荷は順調だったが、価格は杉・桧ともに横ばいである。
		県北地区プレカット	今月の加工坪数は目標の70%となり、前月と同様であった。入荷状況は、合板の入荷が遅れている。4月の加工予定は前月よりは多く入っている。
		県央地区プレカット	木材の高騰・合板の品不足など、まだまだ厳しい状況が続いている。3月の見積件数は非常に多く入ったが、木材品不足を考えると、実行までに数か月かかる見通し。
紙・紙加工品	段ボール	生産数量は前年同月並みであり、比較的良かった。4月からは原材料の価格が上がり、収益が悪化する懸念がある。お客様に価格の改定をお願いしているが、早くても5月からになる。ガソリン、電気その他諸々が値上げになり、今年度も厳しい1年となりそうである。	
印刷	総合印刷	紙・インク等の原材料の値上がりを販売価格に転嫁できない中小企業の体質が、収益を圧迫している。毎年、雇用人員の減少が目立つ。経営者の高齢化、後継者の問題も潜在化している。	
窯業・土石製品	県西地区石工品	石材製品を作るのに必要な、電気・材料・消耗品等の価格が上昇している。また、ガソリン価格の上昇で輸送コストも上がっている。製品価格の値上げが課題である。	
	陶磁器	第41回笠間の陶炎祭に向け、準備を進めているが、県内の感染者数が1,000人台で下げ止まりになっているのが懸念される。何とか開催したいと考えている。	
鉄鋼・金属	鉄鋼	景況について、前年度末と比較して改善している。今まで比較的好調であった建築関連の受注は比較的良好であった。車関連部品の受注については自動車メーカーによって大きく異なっている。機械部品については大きな変動はない。金属材料は、銅・ニッケル・亜鉛・鉄・ステンレスなど全ての金属が値上がりしている。貴金属関係の材料についても、価格が今だ高値である。工業薬品等についてもすべての薬品が値上がりしている。石油関連製品やガソリン・灯油なども高値である。	
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月比ですべて増加となった。全体増減率は前年同月比125%であった。新型コロナウイルスの影響はあるものの、主要取引先からの受注が増加した事に伴い、売上高は直近5年間で最大となった。組合員企業で、受注の増加に伴い、派遣社員数が増加している。	
輸送用機器	県北地区自動車部品	潜在的な受注は上向き傾向にあるものの、一部の部品供給停滞により売上に悪影響あり。	
	輸送車両	令和4年度3月末で1組合員の脱退があった。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比2.89%増加。商品単価の上昇で、取扱高は増加したものの取扱数量は減少している。荷受業者(卸2社)については、仕入価格の上昇・商品確保等厳しい状況である。また、仲卸業者・買受人等も新型コロナウイルスの影響が続いている中での商品単価の上昇が今後も予想されるため、厳しい状況である。ロシアによるウクライナ侵攻が長期化すれば、サーモン・タラコ・年末商材のカニ等にさらに影響が予想される。
	米麦卸売業	様々な物が値上がりしている中、米価は下がったままである。やっと古米の在庫が減少し始め、令和3年産米の出荷が順調に進み始めた。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、前年同月比約2.5%の減少。先月まで10%以上の減少で推移してきたが、年度末の月であることに伴い、公共工事が増加、減少幅が1桁へ縮小した。
小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比100.6%、客数は同107.3%で、春休みの影響もあり、アミューズメントが好調で、この結果となった。まん延防止等重点措置の解除を追い風としたい。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上(客数)は前年同月比は99%(95%)となり、前年同月よりも悪化した。主要業種では、食品98%(94%)、飲食96%(93%)、ファッション96%(99%)であった。3月4日~6日にお買い物還元イベント、お彼岸期間にポイント交換会を実施したが、前年同月比で売上・客数ともに落ちた結果となった。食品、飲食店舗では原価高騰のため、商品の値上げが増えてきている。4/15より大手小売店と合同で誕生祭を開催する予定であり、ファッション店舗のキッズフロアの増床、カラオケBOXや電位治療店舗のオープンなどで売上・客数の増加を目指している。
	県南地区共同店舗	当月も新型コロナウイルスの影響を受けており、状況に大きい変化はない。特に客数は依然として厳しい。その中で、前年同月比で飲食に少しずつではあるが回復の兆しがある。 売上は前年同月比で、全体98.6%、衣料77.6%、文化品76.4%、食料品92.0%、飲食111.1%、サービス99.3%であった。 前々年同月比では、全体93.9%、衣料90.7%、文化品82.1%、食料品90.9%、飲食104.3%、サービス88.7%であった。
	家電	依然続く新型コロナウイルスの影響で、組合の会議や各組合員企業の動きも控え目となり、入進学商戦を行ったが、例年程の売上はなかった。この状況だと、新年度も心配である。全体的な販売は減少傾向であるが、白物家電(家事家電)は好調であった。また、有機ELテレビは半導体不足の影響もあり品切れであるものの、好調である。
	燃料小売	まん延防止等重点措置が3月21日に解除になったものの、消費回復の見込みが依然として見えず、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢悪化により、原油価格が高騰しており、消費悪化に拍車がかかっている。以上のような状況により、石油製品の消費量は前年同月を下回り、景況は悪化している。
	中古自動車	前年同月で販売価格は131.4%と大幅に上昇したが、販売台数が71.9%と大きく減少したため、売上高は94.5%とコロナ禍で低迷した前年度をさらに下回る結果となった。半導体不足や海外のロックダウンによる部品供給の遅れが新車製造の縮小を長引かせており、深刻な流通車不足が影響し、過去に例のない中古車相場の高騰が続いている。
	食料品	食品流通業により、コロナ禍において食のライフラインを担うことで、組合員の売上に繋がっている。3月についても来客数は減少したが、1人当たりの買上げ金額は増加という現象が続いている。菓子の売上の減少が大きく、その要因として米菓メーカーの火災により商品が品薄となり、チャンスロス(商品が欠品したことで販売する機会を損失し、本来得られた利益を逃してしまう。機会損失。)が発生した。そうした中でも組合員は来店していただくお客様に、安心・安全な買い物環境や商品を提供している。今後も、来店客に安心・安全な店であるように、新型コロナウイルスの感染対策は万全に行っていく。
	野菜・果実	3月の取扱高は野菜果実合計で前年同月比105.4%となった。野菜に関しては、2月末から続く高値が尾を引いており、上旬から下旬にかけてほぼ毎日前年同月比100%を超える買上高となっていたが、下旬以降は出荷が安定し始め、価格も落ち着きを見せた。果物に関しても、全体的に前年より出荷数がやや少なく、価格はやや高値で推移した。
商店街	水戸	食材や石油製品等の原材料の価格が高騰している。
	筑西	新型コロナウイルスとロシアとウクライナの戦争の影響で、食材費や電気・ガス・燃料費の高騰が著しい。その中でも、電気代は前年同月比で30%程度上昇しており、企業努力では削減できる状況ではない。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車においては、新車の販売台数の減少もあり10%以上の減少となった。しかし、軽自動車は微増となり、全体としては5%程度の減少にとどまった。ただし、整備に必要な油脂類・ケミカル類(エンジンオイル、洗浄剤等)の値上がりにより、令和4年度は収益面の悪化が懸念される。
	ホテル・旅館	コロナ禍の制限の緩和もあり、県内よりも県外からの宿泊者(ビジネス・観光ともに)の増加がみられ売上は上昇傾向である。しかし、リネン・食材・清掃費・燃料費の高騰は収益をかなり圧迫している。特に、灯油価格は過去最高額である。これまで宴会場を提供していた施設も、ここ数ヶ月は宴会の予約を受けずに宿泊のみに絞り込んでいる施設が増えてきた。

非製造業

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和4年3月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	総合	例年通りであるが、年度末工事の一斉完了に伴い、新年度は各社工事が激減し、従業員の仕事がない状況である。工事入札も低調で少なく、各社ダンピング受注 (請負の額によっては工事の適正な施工が見込まれない契約の締結) を余儀なくされている。
	電気工事	資材不足が続いており、現場に支障が出ている。また、材料の価格も上昇している。
	型枠工事	今月の現況も、前年と変わらない。毎年、年度末は土木や建築工事の新規発注がなく、前年からの受注工事を継続中である。まだ、新年度の発注状況等ははっきりとは分からない。特に、海外で起きた紛争次第で、何が起こるか検討もつかない。
非製造業	一軽貨物運送	当月の組合員数は115名、車輛台数は146台で前月と比較して1名の減少、1台の減少となった。また、運送売上高については、前年同月比127.6%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は7,099名、車輛台数8,415台で前月と比較して36名減少、45台減少であった。
	県北地区一般貨物	主要顧客の動向は、年度末であるが出荷物量が低調で、売上高も減少している。一方、燃料価格は政府補助金があっても更に上昇している。運賃は、燃料高騰に伴い一部値上げをしていただいたが、収益改善には至らず益々厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数増加を要望する。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報を教えて欲しい。
	燃料小売	<ul style="list-style-type: none"> 揮発油税に課税している二重課税の廃止 新型コロナウイルス感染症対策となる経済政策等 官公需適格組合契約拡大の支援
商店街	筑西	国で国民が敏感に感じるガソリン代に補助をしているが、同様に電気代も検討して欲しい。電力会社によると、来月5月にもさらに価格が上昇するとのことだった。
建設業	総合	年々、年度当初の公共工事の工事発注状況は改善されているが、まだまだ各社に工事が行き渡るには程遠い。3月末で工事完成と引渡しの弊害 (単年度会計の弊害) が、新年度の各社の業務量の減少の原因である。工事の完成時期を4.5.6月に分散する努力をお願いしたい。
	型枠工事	特に、木材と燃料費の高騰が著しい状態である。何かしらの助成制度などの活用ができるように、ご指導をお願いしたい。

月次景況調査 3月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	3月	2月	前月比	3月	2月	前月比	3月	2月	前月比
景 況	▲ 48.0	▲ 48.0	0.0	▲ 50.0	▲ 53.8	3.8	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 4.1
売 上 高	▲ 24.0	▲ 30.0	6.0	▲ 26.9	▲ 30.8	3.9	▲ 20.8	▲ 29.2	8.4
収 益 状 況	▲ 48.0	▲ 46.0	▲ 2.0	▲ 46.2	▲ 46.2	0.0	▲ 50.0	▲ 45.8	▲ 4.2
販 売 価 格	20.0	8.0	12.0	11.5	0.0	11.5	29.2	16.7	12.5
取 引 条 件	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 2.0	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 3.8	▲ 29.2	▲ 29.2	0.0

中小企業月次景況調査(令和4年3月)DI値(前年同月比)

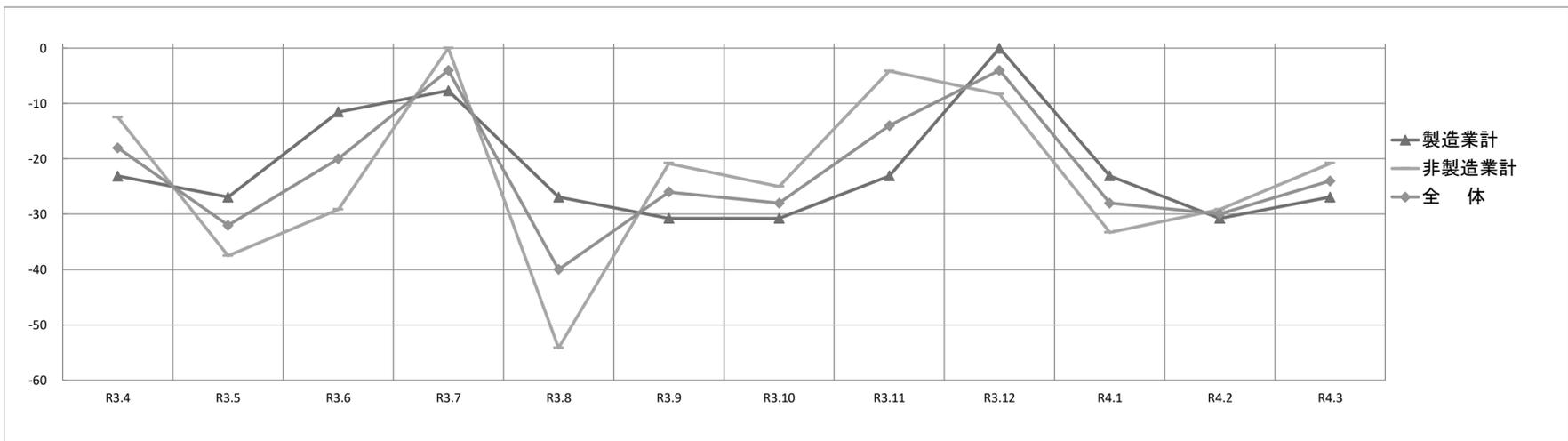
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 66.7	0	2	4	6	0.0	1	4	1	6	16.7	1	5	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 83.3	0	1	5	6
	繊維工業	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	1	0	2	3	0.0	1	1	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
製造業計	△ 26.9	4	11	11	26	0.0	4	18	4	26	11.5	4	21	1	26	△ 26.9	0	19	7	26	△ 46.2	1	12	13	26	△ 34.6	1	15	10	26	△ 19.2	3	15	8	26	△ 15.4	1	20	5	26	△ 50.0	0	13	13	26	
非製造業	卸売業	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3						0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	小売業 (商店街含む)	△ 41.7	2	3	7	12	△ 8.3	1	9	2	12	33.3	4	8	0	12	△ 41.7	0	7	5	12	△ 50.0	0	6	6	12	△ 50.0	0	6	6	12						△ 8.3	0	11	1	12	△ 41.7	0	7	5	12
	サービス業	50.0	1	1	0	2						50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1	2						△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2
	建設業	0.0	1	3	1	5						20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5						0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5
	運輸業	0.0	1	0	1	2						50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2						0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2
	非製造業計	△ 20.8	5	9	10	24	△ 20.0	1	10	4	15	29.2	8	15	1	24	△ 29.2	0	17	7	24	△ 50.0	1	10	13	24	△ 37.5	0	15	9	24						△ 8.3	0	22	2	24	△ 45.8	0	13	11	24
全体	△ 24.0	9	20	21	50	△ 7.3	5	28	8	41	20.0	12	36	2	50	△ 28.0	0	36	14	50	△ 48.0	2	22	26	50	△ 36.0	1	30	19	50	△ 19.2	3	15	8	26	△ 12.0	1	42	7	50	△ 48.0	0	26	24	50	

D I 値推移表 (R3. 4月 ~ R4. 3月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R3. 4	R3. 5	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 15.0	▲ 15.0	5.0	10.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0
製造業計	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9
卸売業	100.0	33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 16.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0
建設業	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 29.2	0.0	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 20.8
全体	▲ 18.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 24.0

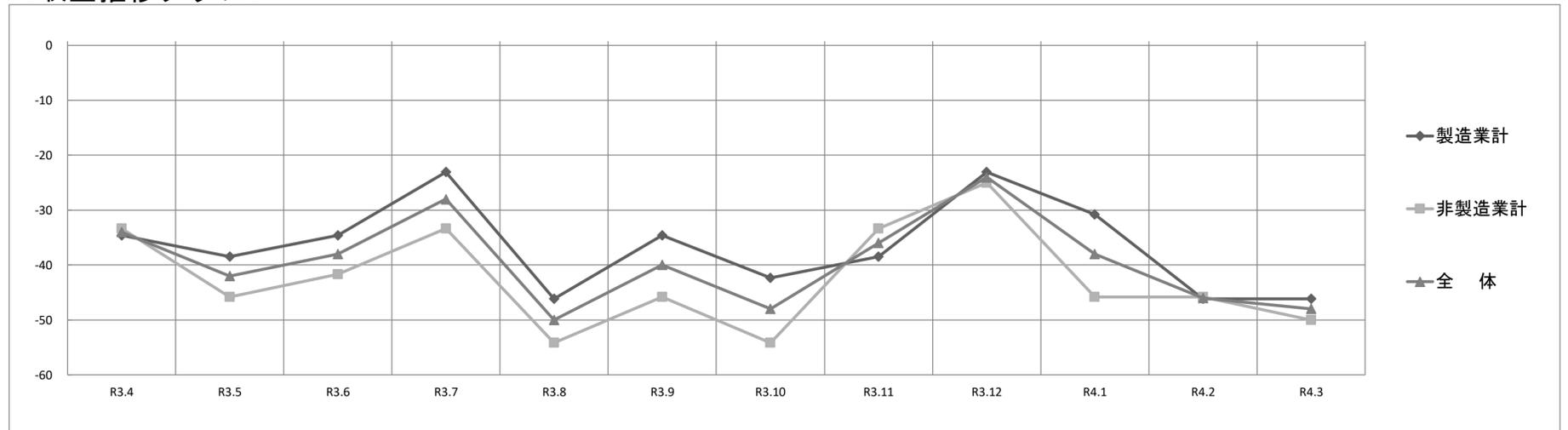
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3. 4	R3. 5	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 46.2
卸売業	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0
建設業	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 50.0
全体	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0	▲ 46.0	▲ 48.0

《収益推移グラフ》

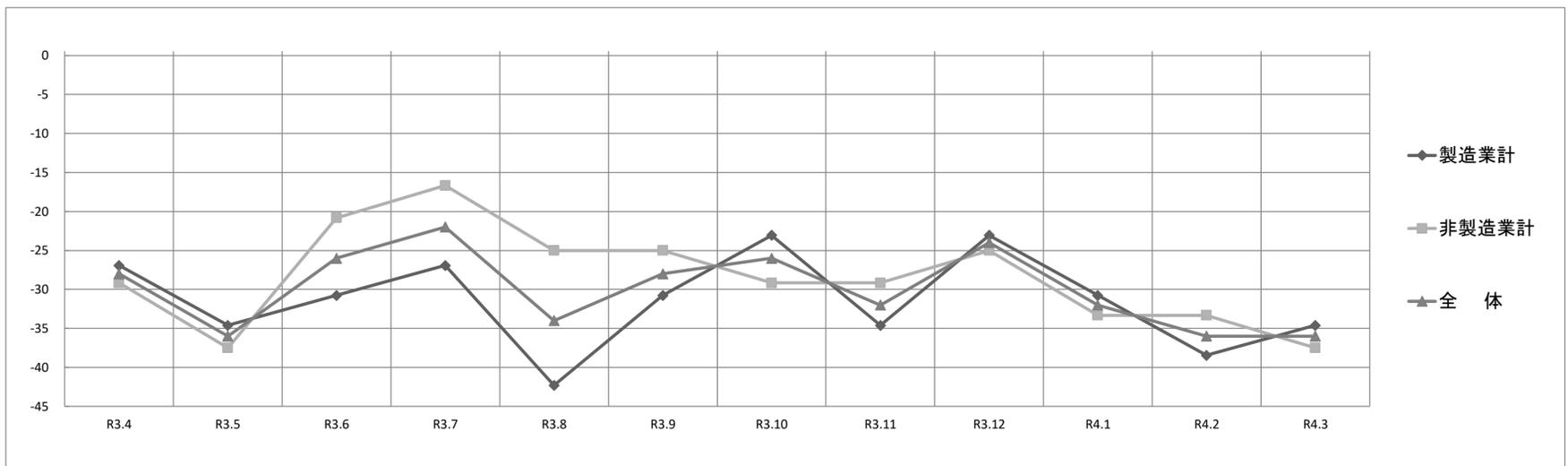


D I 値推移表 (R3.4月 ~ R4.3月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 34.6
卸売業	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 37.5	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5
全体	▲ 28.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 38.5	▲ 53.8	▲ 50.0
卸売業	0.0	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	▲ 40.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 45.8
全体	▲ 32.0	▲ 38.0	▲ 40.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 14.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 48.0

《景況推移グラフ》

